



宝永小だより

No.13

福井市宝永小学校

令和7年9月30日

学校教育目標：ひとり立ちできる子 ～心身共にたくましく、進んで学び合い、高め合う児童の育成～
めざす児童像：進んで学び合える子・協力し合える子・心と体を鍛える子・ふるさとを大切にする子

5年生 昔ながらの稲刈り体験 9月9日(火)

「一乗谷あさくら水の駅」体験農園で、5月9日(金)に子どもたちが田植え体験(「宝永小だより」No.4に掲載)をしてから4カ月が経過し、刈り取りの時期を迎えました。子どもたちは、猛暑の中で、熱中症対策をしながら、稲刈りを体験しました。

地元農家でつくる「あさくら水の駅ふれあい協議会」の方のご指導のもと、子どもたちは、たわわに実ったコシヒカリを鎌を使って一株ずつ刈り取り、束にして紐で縛った後、天日干しのために「はさ掛け」を行いました。子どもたちは、「刈る・束ねる・掛ける」の一連の作業を繰り返しました。普段はなかなか体験することのできない昔ながらの稲刈りを体験して、子どもたちは、米作りの生産過程や機械を使わず作業することの大変さについて学ぶことができました。

収穫した米は、すでに、学校に届けられました。

<5年児童の感想>、私はいねかりを初めて試みて、今は機械とかで、やっているけれど、昔の人はこんなに大変なのに、1本1本手作業でやっていて、昔の農家さんたちの大変さがよく感じられました。いねかりで使うかまがめっちゃ重いと思ったけれど、意外と軽くて、びっくりしました。私がちょっといねをかっただけで、こんなに大変で、お米を作るには、もっともっとやるのがあって、お米を作るのは、とっても大変なんだということがよく分かりました。最初にいねをかった時は、けっこう、いねの下の方がかたくて、なかなか、きれなかったけれど、だんだんやっていくうちに、こつがつかめて、さくさくかれて、楽しかったし、大変でした。こんなにがんばって作っている米だから、もっともっと大切にお米を食べたいなと思いました。私は、どれくらいの束にしたらいかががむずかしくて、よく考えて、ちょっと少ないとかいろいろなことを考えて、いねをかりました。



<鎌を使って刈る様子>



<稲を束ねる様子>



<はさ掛けの様子>

<5年児童の感想> 今日、私は、いねかり体験をして、最初は楽しいと思ったけど、やっていくうちに、つかれてきたから、昔の人は、これを毎日やっていてすごいと思いました。また、機械化が進んで、コンバインという機械ができて、かまでほとんどやらなくて、すむようになってよかったと思いました。はさがけは楽しかったです。しかし、何束も、いっしょに持っていくと重くて、大変だと思いました。田植えはいねかり体験をして、さらにお米の大事さ、お米作りの大変さを知ることができてよかったです。かったお米を大事に食べたいです。

6年生 「福井市小学校スポーツフェスタ」に参加



<ボッチャの様子>



<フライングディスクの様子>

6年生の子どもたちが、セーレン・ドリームアリーナ(県営体育館)で行われた「福井市小学校スポーツフェスタ」の初日(9月10日)の午後の部に参加しました。ニュースポーツ体験(フライングディスク・ボッチャ・スティックリング・卓球バレー)の中から、本校の子どもたちはボッチャ(ボッチャとは、イタリア語で「ボール」を意味し、重度脳性麻痺者もしくは同程度の四肢重度機能障がい者のために考案されたヨーロッパ発祥のスポーツです)とフライングディスク(プラスチック製のディスクとそれを使ったスポーツ競技種目を総称する一般名称として1984年に制定されました)に挑戦しました。子どもたちにとって、ボッチャは4年生のときに初めて体験し、親子で楽しんだ5年生のPTA分会行事以来の競技体験となりました。また、子どもたちはフリスビーで遊んだ経験はあったとしても、フライングディスクというスポーツ競技種目として体験するのは初めてでした。どちらの競技にしても、力加減を調整しながら得点を競い、みんなで楽しむことができていました。さらに、9.98 スタジアム(陸上競技場)の見学もできました。加えて、子どもたちはスターティングブロックを使ったスタートに挑戦し、ホームストレートを走ることができました。

今回のニュースポーツの体験を通して、子どもたちは得手不得手に関わらず、スポーツを楽しみ、興味・関心を高めることができました。今後も、子どもたちが、豊かなスポーツライフを実現していくことを願っています。

1年生 虫取りに挑戦 9月4日(木)・11日(木)

生活科「いきものとな

かよし～むしをさがそう～」の学習の一環として、子どもたちは網と虫かごを持って、校庭や尾上公園の草むらへ行きました。そこで、子どもたちは、トンボや蝶などの虫と出会い、歓声を上げながら網を振り下ろし、思い思いに虫を捕まえていました。そして、捕まえた虫を虫かごに入れて、大事に教室へ持ち帰りました。子どもたちは、暑さが残る秋の自然に親しんでいました。

その後の生活科の時間に、子どもたちは報告会を行い、捕まえた虫や見つけた虫の紹介ポスターと校庭のイラストマップにまとめ、学び合いました。シオカラトンボや赤トンボやアゲハチョウ、クモやハチやアリなど、全10種類の生き物が取り上げられ、学びの足跡として『いきものだいずかん』が教室の入口に掲示されています。

例えば『かやきり』の場合、見つけた場所は『(学校の)はたけ』、動きは『びよんびよん』、体のことは『つのがつんつん。あしとうでもほそい。おなかがぷっくりしている。はねがうすっぱらい。』とまとめられており、豊かな観察力に感心するばかりです。



<掲示『いきものだいずかん』>

2年生 図画工作『しんぶんとなかよし』 9月12日(金)

図工の学習で「しんぶんとなか

よし」の活動をしました。2年生の子どもたち全員で新聞紙を並べたり、まったり、破ったり、つなげたり、丸めたりしながら、2時間限定のヒミツ基地を図工室に作りました。

子どもたちは新聞紙の大きさや形、さわった感じを楽しみながら、体全体で新聞紙と関わり、思いついた活



<新聞紙を破ったり、つなげたり、丸めたり>

動を楽しみました。体に新聞を巻き付ける子ども、変身ベルトやマントをつけてヒーローものになりきる子ども、剣や鎧や盾などを作って戦う子ども、家、布団、ドレスを作って着飾る子ども、机と机の間を新聞紙で囲んで隠れ家を作る子どもなど、子どもたちの発想力には、おどろかされました。最後には友だちの作った作品を見たり、作品で遊んだりしました。全員の活動では、自然と友達と協力して一緒に活動したり、友達のしていることに影響を受けたりしながら、活動を広げていく姿が見られました。

子どもたちはこの活動を通して、思い思いにつくった形や、変化した新聞紙の面白さを味わうとともに、創造力や表現力、仲間と協力する力を養うことができました。

3・4年生 合同で運動会の練習に取り組む 9月17日(水)

ポジティブ教育の一つで

ある『ピア・サポート活動』の実践として、3・4年生が合同で運動会の練習を行いました。ピア・サポートはピア(peer:仲間)とサポート(support:支援)で作られた言葉です。その言葉どおり、同じ経験や困難・課題を抱える仲間(ピア)が、互いに支援し合う活動です。

今回は、3年生が4年生の行っている学年種目『おとせ!まもれ!わくわくタワー』の様子を見て、その後、3年生が4年生に競技へのアドバイスをしました。次に、4年生が3年生の行っている学年種目『36個の花を咲かせるよ!全員集合!!』の様子を見て、その後、4年生が3年生に競技へのアドバイスをしました。また、3年生がスムーズに競技を進められるよう、各色から5人の4年生が競技の補助員として、その場で選出されました。さらに、4年生は3年生の競技の用具の後始末まで手伝う姿があり、3年生を支える動きはさすが上級生でした。



<4年生が3年生の行っている学年種目を見ている場面>

*9月26日(金)に、校内運動会が無事に終了しました。保護者の皆様には、早朝より、子どもたちの応援に駆けつけていただき、本当にありがとうございました。子どもたちは、練習の成果を発揮し、思い出に残る運動会にすることができました。子どもたちの振り返りの感想等からも、多くのことを学び、意義のある運動会になったことが伝わってきます。詳しくは、次号の「宝永小だより」でお伝えします。

*本校の周りの横断歩道に、右のような路面シートが貼り付けられています。このシートは、福井県防災安全部県民安全課の「横断歩道 de 歩行者ファースト」キャンペーンで事故防止の意識醸成を図るものです。横断歩道では、手を挙げるなどの明確な横断意思をドライバーに伝えることで、停止率が約30%も上昇することが分かっているそうです。このシートは、キャンペーンキャラクターの「トマレックス」が描かれており、「とまってよく見て 手をあげて!」と書かれています。信号機のない横断歩道を渡る際に、手を挙げることを促す、このシートを見て、安全に横断歩道を渡ってほしいと思います。

